

第1学年社会科学学習指導案

日時 平成26年11月7日(金) 6校時

対象 1年3組 男20名、女15名 計35名

指導者 城内 玲

1 単元名 第3章 中世の日本 1節 武士の台頭と鎌倉幕府

2 単元の目標

ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色をとらえさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。
イ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。

- (1) 平安時代の社会から生まれた武士がしだいに力をつけ、鎌倉幕府が成立するに至るまでの経緯のあらましを理解させる。
- (2) 守護・地頭の設置や承久の乱を経て幕府の支配がしだいに全国に広まったことを理解させ、武家政権の特色を考えさせる。
- (3) 鎌倉時代の武士の生活や民衆の動きに関心を持たせ、その様子を資料からとらえさせる。
- (4) 鎌倉時代の文化と仏教に見られる新しい動きを理解させ、当時の社会との関連を考えさせる。

3 単元の評価規準

| 観点 | B：おおむね満足できる |
|-----------------|--|
| 社会的事象への関心・意欲・態度 | ・武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きに対する関心を高め、意欲的に学習している。 ・鎌倉時代の新しい文化と仏教に対する関心を高め、現在との結びつきについて意欲的に学習している。 |
| 社会的な思考・判断・表現 | ・武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷、土地制度の変化などから多面的・多角的に考察している。 ・鎌倉時代に新しい文化と仏教が生まれたことを、武士や民衆の動きと関連させて多面的・多角的に考察している。 |
| 資料活用の技能 | ・武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を活用している。 |
| 社会的事象についての知識・理解 | ・武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり武家政権が発展していったことを理解している。 ・鎌倉時代の新しい文化や仏教の特色を理解している。 |

4 単元について

(1) 生徒について

本学級の一部の生徒は、発問に対して積極的に発言するが、多くの生徒は自分の意見や考えを周りの人と話し合いまとめるという力においては劣っていると感じる。その点を改善するために、小グループでの話し合い活動を取り入れ、生徒が自分の考えを発表しまとめていく力をつけさせていきたい。また、資料の読み取りをもとに考察していく力も弱さを感じるため、資料を読み取る視点を与えながら考察していく場面を、繰り返し授業の展開に取り入れていきたいと考えている。

(2) 教材について

本単元は、『中学校学習指導要領解説－社会編』の内容（3）ア「鎌倉幕府の成立，南北朝の争乱と室町幕府，東アジアの国際関係，応仁の乱後の社会的な変動などを通して，武家政治の特色を考えさせ，武士が台頭して武家政権が成立し，その支配がしだいに全国に広まるとともに，東アジア世界と密接にかかわりがみられたことを理解させる。」こととなっている。

本時で扱う内容は，小学校6年生の日本の歴史において，平清盛や源頼朝などの人物を中心に歴史学習が行われており，生徒にとっては十分なじみ深いものと考えられる。また，武士について生徒は大変興味深く学習する傾向にあり，この時期の教材としては意欲的に学習できる教材であると考え。本教材では，武家政権が東国に生まれ，支配を広げていった様子を，幕府と朝廷の関係などから理解させるとともに，将軍と執権と御家人の関係に着目させ，武家政権の特色を考えさせたい。

(3) 指導について

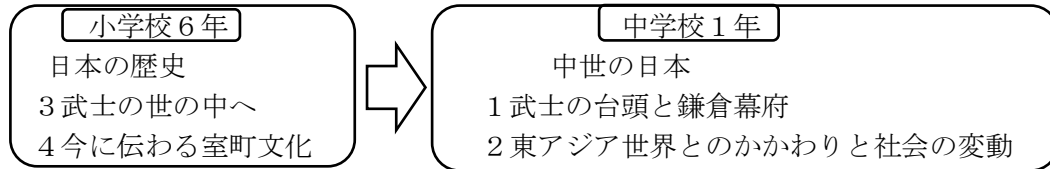
歴史学習においては，異なる資料を見ながら疑問を感じそれを課題として，その課題を解決していくために検証資料を活用していくという学習が少しずつ定着してきている。しかし，まだ資料の読み取り能力にばらつきがあるため，資料を読み取る視点を与えながら学習を進めたいと考えている。

「場のつながり」として，本校区の小中学校共同で作成された「生活の約束」「学習の約束」をもとに学習活動を進めたい。

「教材のつながり」として，本単元は「歴史的分野」として（小学校6年生3 武士の世の中へ）の延長線上にある。小学校で学んだ内容を思い出させ，さらに学びを深めさせたい。

「人のつながり」について，小グループ内で資料を用いて調べたことや考えたことを発表しあひ交流する場を設けたい。その交流の中で，同意により自分の考えに自信を持たせたり，他の人との考え方の違いなども体験させたりして，自他のよさを認め合う場にしたいと考える。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（4時間扱い）

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 武士の成長 | 1時間 |
| (2) 武家政権の成立 | 1時間（本時） |
| (3) 武士と民衆の生活 | 1時間 |
| (4) 鎌倉時代の文化と宗教 | 1時間 |

7 本時について

(1) 目標

- ① 武家政権が東国に生まれ，支配力を広げていった様子を幕府と朝廷の関係などから理解している。《知識・理解》
- ② 将軍や執権と御家人の関係に着目して，武家政権の特色を考えている。《思考・判断・表現》

(2) 「自分の考えを持つ^自」「互いの考えを交流する^交」「お互いの考えのよさを気づく^気」場面

「自分の考えを持つ」場面は，課題提示後に行う，課題についての予想の場面である。

「お互いの考えを交流する」場面は，展開部のグループでの話し合いが交流の場面である。

「お互いのよさを気づく」場面はグループの発表後の場面である。小グループでの話し合いによって，通常の授業では発言を控える生徒でも自分の考えをグループ内で伝えることができると考えた。これにより，「生き生きと表現する生徒の育成」という研究主題に迫れると考えられる。

(4) 板書計画

11/7 P62 2 武家政権の成立

平氏政権 18年

鎌倉幕府 148年

同じ武士の政権でありながら、なぜ鎌倉幕府は平氏の政権より長く続いたのだろう。

予想

源義経が源頼朝の許可なく朝廷から官位を受ける
頼朝は義経と対立、義経をつかまえるため

1185年 国ごとに**守護**・荘園ごとに**地頭**を置く
鎌倉幕府を開く **鎌倉時代**の始まり

1189年 奥州藤原氏をほろぼす
⇒東北地方を支配

1192年 源頼朝が**征夷大將軍**に任命される

將軍：**御恩** (土地の支配を認める・新しい土地を与える)



主従関係

御家人：**奉公**(京都の警備・合戦に参加)

頼朝の死後→政権の実権は北条氏へ

執権政治の始まり

3代將軍源実朝が暗殺される

1221年 後鳥羽上皇が挙兵=**承久の乱**

目的：幕府を倒し、朝廷の勢力を回復

結果：・失敗→上皇は隠岐に流される

・京都に**六波羅探題**を設置(朝廷監視)

・上皇に味方した貴族や武士の土地を取り上げ、地頭に東日本の武士を任命

影響：幕府の支配力が全国に広がり一段と強まる

まとめ

鎌倉幕府は、將軍と御家人が御恩と奉公で主従関係となり、承久の乱などでしだいに支配を全国に広げていったことにより、長く政権を維持できた。